

サントピア交流 ヨットレース&プチクル 5月17日

美しい夜のサントピアマリーナ



朝日も美しいサントピアマリーナ

サントピアヨットクラブの呼びかけで、「サントピア・淡輪交流プチレース&プチクル」が5月16、17日に開催され、淡輪から8艇35名。サントピアヨットクラブの皆さん合わせて総勢20艇、80名の参加となりました。

両日とも、前線の通過で荒天が予測される中、16日午後から淡輪艇が三々五々サントピアマリーナに集結。18時から、交流レース前夜祭。両会長のごあいさつ、乾杯の後賑やかなパーティーとなった。いつもながら、おいしい、おしゃれな、心尽くしの料理(ホタテ貝に涙!)ワインでほろ酔い。サントピアの夜は更けていきました。さて、翌朝目覚めるとなんと陽が差しています。でもそれもつかの間、海上は白兔が白馬に変貌。艇長会議が始まる9時前には、ハーバー内にも強いブローが吹き込み各艇長の目にも諦めの色「こら無理やな!」結局荒天の為ノーレースとなった。さてどうする?ということで、淡輪組は、剛腕揃いの荒天突破組(TWOTON, 海燕、ルカー)、細腕揃い陸上安全組(ピーターサリー二世、恵友丸二世、PUKUPUKU、トライボンド)、もう1泊滞在組のグラシャスト、各艇それらしいコースを選択。その結果・・・荒天突破組は全艇メインセールボロボロの洗礼を受け、陸上安全組は、神戸「赤満」の餃子&ビールでプチキッチン、宿泊組はのんびり。それぞれに楽しんだ2日間でした。サントピアの皆様、

荒天の中、大変お気遣い・ご心労お疲れ様でした。本当にお世話になり厚く御礼! 次回は淡々レースでお会いしましょう。

(PukuPuku

市川氏)



会長の音頭でかんぱ〜い!!



パーティでは料理がズラリ。

二次会の様子



大阪湾クリーン作戦参加

6月7日



清掃の様子
(背景は海洋センター)

大漁だぞ〜!
じゃなくてゴミです

大阪湾クリーン作戦に参加しました。汗を流した分綺麗になりました。



みんなで汗を流しています



最後にみんなで記念撮影

本日の戦果

第24回

メリディアンカップ

5月3~4日



3日のスタートシーン

2009年第24回メリディアンカップレース

5月ゴールデンウィーク恒例のメリディアンカップ。今年で24回目を迎え参加はIRCクラス8艇、オープンクラス5艇、フェスティバルに11艇と少々寂しい参加ながらも顔ぶれはハイレベル艇の参加が目立ち、白熱したレース展開を見せた。

初日3日は南の風15ノットから20ノット。ヨットレースには最高のコンディション、淡輪ではめずらしい中風から強風のレース展開。上マーク1.5マイルも短く感じられ予定より早いレース展開で3レースを14時30分には終了。

明けて4日フェスティバルレースを交えた志筑沖回航はうす曇で朝から無風。数回のゼネリコ後20分遅れで志筑を目指す弱い西風のなか、思うようには前へ進めず各艇一進一退のレース展開。大阪湾の中よりから北よりに振れた風が5ノット程度に上がり、コース短縮となった志筑沖マークに1艇のDNFを除く参加艇がフィニッシュした。修正では小型艇が上位を占め先行した大型艇には不利なレース結果となった。レース結果は成績表参照。

ここ数年、景気後退や乗員の高齢化などにより参加艇の減少、参加艇のレース離れが如実になり、レース運営もたやすくなってきました。レース会計の赤字、運営委員の手不足など・・・毎回ギリギリの運営で行っているのが実情です。時勢の変化など考え、ヨットクラブの行事として今後どうあるべきかと考える時期にきていると思います。

運営にご協力頂きました関係者各位にお礼申し上げます。

ヨットクラブレース委員長 佐藤 明

接近したEMI (右) とRELAXIN
やっぱりヨットレースはこうでなくちゃ!
(3日第2レーススタート時)



メリディアンカップ IRCクラス優勝

FIVE STAR クルー 川井 智広

優勝したFIVE STARに、この4月からクルーとして乗せていただいております。

実は僕はヨットを始めてから1年たったばかりです。そんな僕でもレースに出ることができ、ヨットの楽しさをまた知ることができました。

レースにはバウマンとして出場しましたが、2日間はそれぞれ風の強さが違い、色々勉強できました。2日目の復路が中止になってしまったことが心残りです。しかし僕にとっては初優勝だったので、淡輪は忘れられない所になりました。

淡輪ヨットクラブをはじめ、大会運営の皆様には大変お世話になりました。来年以降はどうなるか未定との事ですが、ぜひこの素晴らしい企画を続けていただきたいと思います。ありがとうございました。



IRCクラスで優勝した
FIVESTAR



FIVE STARのメンバー

メリディアンカップ オープンクラス 優勝

TWO TON 佐藤 明

何と今年になってこのレースがチームとして初めてのセーリング。ボトムは5日前に入念に整備し完璧であったが、クルーワークに少々不安が残る。

初日3日は南の風15ノット吹き結構ハード。でもヨットレースには最高のコンディション。そんな中レースが始まるが予想通りクルーワークはリセット病が再発が数々のミス連発。デッキでは罵声が飛び交い、さながら戦場みたいになってきた。レース結果よりライバル艇の海燕より上で入れればよしと言う目標に変えレースする。その後1,2,3レースと尻上がりに順位を上げ3日終わってみればオープンクラスは横一線。4日の志筑沖ロングに託す。

明けて4日のロングは朝から無風。何とかスタートするが弱い西風の中我慢のセーリングが続く。幸い先行艇にも良い風がなくそんなに離されず志筑沖に向う。短縮となった志筑沖回航マーク手前より北に振った風のなか得意のジェネカーを展開する。ジェネカーの威力は絶大で付近の艇に徐々に差を広げフィニッシュした。結果この好走が優勝に繋がることのできた。

ライバル艇「海燕」と競り合いが好結果に繋がったようだ。



オープンクラス優勝
TWO TON

TWO TONの
佐藤氏 (右)



フェスティバルレース 優勝

グラシャス 伊東 邦夫

前日2日間吹き荒れ当日は超微風、願ってもない条件だヨット研修中の2名の他急遽ソワレの青山さんに会ったので引きずり込むのに成功そしてベテランクルー1名と5人体制である。スタートして全艇ポートで北西に向かう。しかし我が1艇は延々とスターポートで洲本のやや南に向かう最後は風が横に廻ってスピンドでフィニッシュスタートからフィニッシュまで右上を向いたままのレースであった。和歌山、瀬戸内海や徳島のディンギーを含む各ヨットクラブに協賛してもらいこの期間に淡輪に集まってくる事が出来ないものかと願う次第です。



グラシャスのメンバー

フェスティバルレース
優勝 グラシャス



成績表

IRC		
順位	艇名	艇種
1	FIVE STAR	SEAM 31
2	MOWE	YAMAHA30SN
3	RELAXIN'	IMX 38
4	FALCON III	FARR 30IOD
5	EMI	MUMM 36
6	STAR OF BETHLEHEM	SEALS R34A
7	CHIBIZULU III	SEAM31MkII
8	RYUSEI 6	FARR34

オープン

順位	艇名	艇種
1	TWOTON	J-92
2	KAIEN 2	X-99
3	YAJIROBAY	FS 32
4	PETIT STAR	J-24
5	STARDUST	FIRST 36s7

フェスティバル

順位	艇名	艇種
1	GRACIAS	FS 28
2	TOTORO	YAMAHA23
3	ORANGE FIN	YAMAHA31S
4	SEA GULL	X-79
5	HEAT WAVE	PLATOU
6	ALBIREO 5	FIRST IMS 40.7
7	EARLYBIRD V	IMX-38
8	CHRISTINA ROSSETTI	FIRST 45F5
9	SPRIT OF SHIWAKU	FARR 30IOD
10	SEA TREK	1D-35
DNF	SHARKS	AUKLET26



前夜祭
パーティーの屋台は
大盛況で行列が...

おでんはすでに空です



バンドと熱唱する佐藤レース委員長

マイクはなさへんで～



スプレーをあげる
STAR DUST



ブローチングするFALCON III



大きくヒールしてマーク回航するMOWA

第1回 ディンギーレース

5月24日



各艇一斉にスタート (第1レース)

第一回ディンギーレースに関して

エントリーは8艇8名でした。ただし 新顔3名に参加してもらえました。新人にエントリーしてもらえると何となく安堵感がするのは私だけでしょうか。

いまや、淡輪のレースはクルーザー、ディンギーとも存続の瀬戸際にあるのはご承知の通りです。解決策に妙案はありません。単純に新人を勧誘するしかありません。

当日は新月で潮流が速く、レースには適さないコンディションでした。また風も弱く2レース成立がやっとでした。潮が速いと一本コースになってしまいボートスピードの優劣みのレースになってしまい乏しい内容のレース展開になってしまいました。(レース委員長 大澤)

成績表

選手名	1R	2R	得点	総合
古谷	1	1	2	1
佐野	2	2	4	2
四ヶ所	4	3	7	3
エバレット	3	4	7	4
高野	5	5	10	5
山本	7	6	13	6
小寺	6	7	13	7
長尾	8	8	16	8



優勝した古谷選手

参加艇は8艇と少ないが白熱したレースが展開された



今日、5月29日朝、久しぶりにニュージーランド、Opuaから約40フィートのクルーザー「TOKIMATA」が入港しました。約1週間滞在予定です。

「TOKIMATA」はマオリ語で鋭いナイフを表すそうです。



バーجزの交換がおこなわれました

ウェルカムパーティが盛大に行なわれました

